

鹿児島県南薩地域における国産広葉樹の活用

九州森林管理局 鹿児島森林管理署 首席森林官 嶋 徹矢
一般職員 ○一川 彩華
森林技術指導官 宮本 和久

1 課題を取り上げた背景

鹿児島県南薩地域は、全国の鰹節生産量の7割を占めており、令和4年度では、推定47,000 m³の広葉樹の薪が使用されています(写真1)。そのような中、地元の加工組合から、民有林のみでの薪の調達は困難であり、国有林から供給してほしいとの依頼が寄せられました。

鹿児島森林管理署では、こうした地域のニーズを踏まえ、旧薪炭林の林分について、広葉樹の立木販売を実施するなど、広葉樹の安定供給の取組を始めました。



(写真1：山側の鰹節工場の薪集積所)

2 取組の経過

現在、国有林では天然林から広葉樹の供給はほとんど行われていない状況ですが、鰹節生産地の指宿市長及び枕崎市長からの要請を受け、旧薪炭林の林分を確認したところ、当該地域はシカの食害被害が少なく、隣接民有林の更新状況から萌芽更新が確実であると判断できました。また、旧薪炭林にあたる天然広葉樹施業の林分が多く存在していることから、令和5年度9月下旬に広



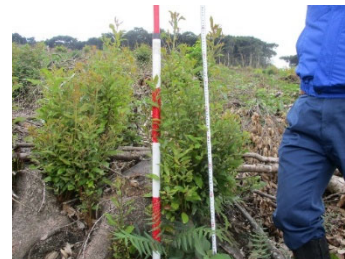
(写真2：広葉樹伐採現場での薪製造)

葉樹約2,300 m³の立木販売を実施し、1 m³あたり1,000円強で落札されました。

3 実行結果

国有林からの広葉樹供給は、薪の利用者・製造者はもとより、地元自治体からも好意的に受け止められ、令和6年度より5年間で16,489 m³の広葉樹を供給することとし、令和7年度は3,564 m³の広葉樹の立木販売を実施しました。

伐採地での萌芽状況は写真3及び写真4(令和6年8月現在)の通り伐採して一年未満で60cmとなり旺盛な更新状況が確認されました。



(写真3：萌芽更新の状況①(令和6年8月))



(写真4：萌芽更新の状況②(令和6年8月))

4 考察

広葉樹の立木販売を行うことにより、地域の広葉樹供給のニーズに応えることができ、収入も得ることができました。萌芽更新等の天然更新が確実であれば、植栽・保育経費を要しないことから、経済的にも有利と考えられます。

なお、当該地域はシカがほとんど生息していないこともあり萌芽更新は良好な状態でした。

今後の課題として、林齢や樹種、シカの生息密度等、地域により萌芽更新等天然更新の状況は変わるため、天然林からの広葉樹供給の取組を広げるうえでは、天然更新の確実性について考慮が必要と考えます。